

園名	子どもの森南町田保育園
日時	2025年1月
実践者	高橋めぐみ
対象年齢人数	4歳児30名

テーマ おままご

テーマを設定する

・おままごとの見立て遊びをすることで、想像力表現力、コミュニケーションの方法を知る

環境をデザインする

○準備物
おままごと材料・キッチン

探求活動を実践する

子どもが日常の観察から仮説を立て、ごっこ遊びの中で自ら問いを見つけて実験・検証するプロセスを目的としました。想像力を広げながら、論理的思考やコミュニケーション能力を深めることが出来る場面を保育者が認識する。大事な場面を大事だと保育者の築きが必要である。

4歳児のおままごとは、より高度になり、言葉のやりとりも「どうぞ」「ありがとう」だけでなく「熱いですよ」「そのジュースはみかんと炭酸とバナナがスムージーになっています」など、言葉の選択。相手の言葉にどのように応じていくかを実践していった。



振り返り・気づき

振り返り 4歳児は、自分の気持ちを伝えたり、言葉のやりとりが上手になっていった。ただ、4歳児故に相手の言葉を受け止め、相手を尊重することは、高度であり、これからの学びであると感じた。家での様子が再現され、言葉として発せられている。模倣とは重要であり、こどもにとっては、「できた、楽しい」につながるあそびであるということがわかった。

反省・次回への課題

・土や葉など、様々な形に変わるものは、子どもの想像力をかきたてる。「これは、ハンバーグです」と土を丸めたものを提供したり。「これは、チャーハンです」と、土を丸めたものを提供する様子は、想像力、コミュニケーション力を養うと感じた。形のある（みてすぐわかるもの）ではなく、色や（花など）葉、どんぐり、等の素材を提供していく